

第82回西日本文化賞受賞記念講演会

学問の視点と方法

—「鎖国」研究を事例として—

江戸時代後期の日本において、あるオランダ語論文を日本語訳する過程で「鎖国」という日本語が誕生した。その和訳書籍とは、エンゲルベルト・ケンペル (Engelbert Kaempfer) 原著、志筑忠雄訳『鎖国論』(1801)。講演では、西日本文化賞(奨励賞・学術文化部門)の受賞理由となった、『鎖国論』の読書史とそれに伴う「鎖国」観の形成史を講義しつつ、併せて研究上の新地平を開いた経緯を中心に、学問の視点、方法、そして魅力を語る。



講演者 熊本県立大学 文学部 教授
大島 明秀

令和6年(2024年)

日時

6月1日 土

13:00~14:30
(12:30開場)

会場

熊本県立大学小ホール

対象者

高校生以上

定員

140名

**参加費
無料**

お申し込みは
こちらから



大学HPの参加者募集ページからお申し込みください。可能な範囲で当日参加も受け付けます。